



## 2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月10日

上場会社名 神姫バス株式会社

上場取引所 東

コード番号 9083 URL <https://www.shinkibus.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長尾 真

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長 (氏名) 小林 健一

TEL 079-223-1243

四半期報告書提出予定日 2020年11月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	15,371	30.6	3,114		2,706		2,601	
2020年3月期第2四半期	22,148	1.1	642	82.6	721	64.5	414	85.9

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 2,582百万円 ( %) 2020年3月期第2四半期 513百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	432.04	
2020年3月期第2四半期	68.86	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	55,057	40,472	73.5	6,716.76
2020年3月期	56,287	43,161	76.6	7,162.92

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 40,447百万円 2020年3月期 43,135百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		17.50		17.50	35.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,500	19.0	2,120		1,290		1,650		274.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期2Q	6,172,000 株	2020年3月期	6,172,000 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2021年3月期2Q	150,152 株	2020年3月期	149,931 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期2Q	6,021,899 株	2020年3月期2Q	6,022,392 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行が社会不安を増大させ、国内消費は一気に冷え込みました。その後、政府の経済政策等により緊急事態宣言時の最悪期に比べると徐々に景気は回復傾向にありますが、雇用情勢は依然低迷しており、厳しい景況感が続いております。

当社を取り巻く環境におきましても、雇用環境の悪化、3密回避やリモートワーク等新しい生活様式の浸透、移動手段の変化、訪日外国人旅行者の激減など特に自動車運送業や旅行業、飲食業等において非常に厳しい状況となりました。この様な状況のもと、当社グループでは、全従業員の雇用を確保しながら、従業員の休業、役員報酬・管理職の賞与等の減額、車両代替等設備投資の抑制、路線バスの減便や貸切バスの減車等を実施し、コスト削減と一層の効率化に努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は前年同期比6,776百万円(△30.6%)減の15,371百万円、営業損失は3,114百万円(前年同期は営業利益642百万円)、経常損失は2,706百万円(前年同期は経常利益721百万円)となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損失は2,601百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益414百万円)となりました。

なお、厳しい状況ながらも、将来に向けた様々な取り組みを実施いたしました。6月にはYouTubeチャンネルを開設し、コロナ禍におけるバスの安全性に関する実証を公開したほか、9月20日のバスの日に合わせ、バス業界初のオンラインフェスを開催する等、バスの利用促進や当社グループのPRを行いました。7月には将来の事業構造の変化に対応すべく、兵庫県三田市のニュータウン内において自動運転バスの実証実験に取り組みしました。8月には神戸市ポートアイランド用地にて新車庫の起工式を行いました。この車庫は2021年春より神戸市内で運行する連節バスの収容、整備に対応しております。

セグメントの業績は次の通りであります。売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

#### ① 自動車運送

乗合バス部門におきましては、地域のインフラとしての役割を果たすべく新型コロナウイルス感染症予防措置をとり、一部コロナ禍の状況でのダイヤにて運行を継続いたしました。ICカードの利用実績では5月の前年同期比39.8%を底に9月では81.5%まで回復しました。関西学院大学、神戸学院大学等の大学がオンライン授業を実施しているため、通学定期の9月利用実績は前年同期比67.3%に止まっておりますが、通勤定期については88.4%まで回復いたしました。高速乗合バス部門におきましては、空港リムジン線、中国・四国線を中心に減便した結果、当第2四半期連結累計期間の旅客数は前年同期比39.3%に止まりました。郵便輸送部門におきましては、新たに定期便を受託したことや荷量の増加に伴う臨時便の増加により、増収となりました。タクシー部門におきましては、5月に舞子神姫タクシー株式会社を事業譲渡したことや、大阪空港や各駅ターミナルでの需要が急激に減少した結果、減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比3,428百万円(△34.6%)減の6,485百万円、営業損失は前年同期比2,477百万円悪化し、2,897百万円の営業損失となりました。

#### ② 車両物販・整備

車両物販部門におきましては、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動や、車両稼働低下により、部品・タイヤ等の出荷が減少いたしました。また、営業自粛のため、自動車販売実績も減少いたしました。車両整備部門におきましても、車検台数の減少や臨時修理等の減少がありました。以上の結果、売上高は前年同期比312百万円(△7.6%)減の3,787百万円、営業利益は前年同期比24百万円(△10.7%)減の206百万円となりました。

#### ③ 業務受託

車両管理部門におきましては、特別支援学校や幼稚園等の新規受注はありましたが、コロナ禍により企業輸送の解約・値下げ要請、稼働減により減収となりました。経営受託部門におきましては、新たに姫路市民センターの受託を開始いたしました。多くの施設で営業自粛を余儀なくされ、減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比95百万円(△6.1%)減の1,470百万円、営業利益は前年同期比30百万円(△20.1%)減の119百万円となりました。

## ④ 不動産

賃貸部門におきましては、本年3月と8月に新たに賃貸マンション2棟を購入し、既存物件におきましても高稼働を維持しているものの、コロナ禍による賃料の減額や姫路駅前神姫ビルの1階改装工事に伴う解約等により減収となりました。住宅部門におきましては、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動で注文住宅の引き渡しが増減し、減収となりました。建設部門におきましては、前年大規模改修工事を受注した反動で減収となりました。建物管理部門におきましては、新型コロナウイルスの消毒作業や新たに定期清掃を受注いたしました。ホテルや貸切バス事業者の稼働減により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比485百万円(△19.4%)減の2,018百万円、営業利益は前年同期比113百万円(△14.4%)減の675百万円となりました。

## ⑤ レジャーサービス

ツタヤFC部門におきましては、外出自粛の影響による「巣ごもり需要」が高まったことにより、書籍を中心に増収となりました。サービスエリア部門におきましては、外出自粛の影響や学校の夏休み短縮、帰省自粛の影響等により高速道路の店前通行量が減少し、特に観光客の減少によるお土産品の販売減少が大きく影響し減収となりました。飲食部門におきましては、徐々に客足は回復傾向にあるものの、外出自粛や営業自粛要請による休業・営業時間の短縮等で減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比1,007百万円(△34.8%)減の1,888百万円、営業損益は前年同期に比べ261百万円悪化し、209百万円の営業損失(前年同期は営業利益52百万円)となりました。

## ⑥ 旅行貸切

旅行部門におきましては、GoToトラベルキャンペーンによる募集型企画旅行の若干の回復はありますが、渡航制限による訪日外国人旅行者の消失、団体旅行の見合わせ等により、依然需要は低迷したままとなっております。貸切バス部門におきましても、学校団体による修学旅行や野外活動の中止、一般団体の自粛等依然稼働は低迷しております。以上の結果、売上高は前年同期比1,761百万円(△82.7%)減の369百万円、営業損益は貸切バスの減車・乗務員の休業等を実施いたしました。前年同期比871百万円悪化し、988百万円の営業損失となりました。

## ⑦ その他

コンビニエンス(ファミリーマートFC)部門におきましては、外出自粛やリモートワークの影響を受け、特に駅前店の売上が減少いたしました。化粧品部門におきましてはサロンの営業自粛の影響がありました。農業部門におきましては、生産事業から撤退いたしました。販売事業では新たに7月西宮市内でバスの八百屋を2店舗開業いたしました。しかし、本年2月に姫路店を閉店した影響が大きく減収となりました。介護部門におきましても、利用自粛があり、減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比66百万円(△8.9%)減の678百万円、営業損益は22百万円悪化し、22百万円の営業損失となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,229百万円減少し、55,057百万円となりました。増減の主なものは、現金及び預金の減少1,826百万円、受取手形及び売掛金の減少1,748百万円、繰延税金資産の減少172百万円、有形固定資産の増加2,185百万円、貸付金の増加199百万円、仕掛品の増加123百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,459百万円増加し、14,584百万円となりました。増減の主なものは、コロナ禍での手元資金拡充のための借入金の増加2,477百万円、リース債務の増加228百万円、賞与引当金の増加188百万円、未払金の減少565百万円、未払法人税等の減少507百万円、繰延税金負債の減少495百万円等であります。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等による利益剰余金の減少2,707百万円、退職給付に係る調整累計額の減少10百万円、その他有価証券評価差額金の増加29百万円等により、前連結会計年度末に比べ2,689百万円減少の40,472百万円となり、自己資本比率は73.5%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前連結会計年度末に比べ1,826百万円減少し、5,418百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失2,770百万円、減価償却費1,285百万円、売上債権の減少額1,748百万円、未払金の減少413百万円、未払消費税等の減少443百万円等により528百万円の支出（前年同期は3,413百万円の収入）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出105百万円、有形固定資産の取得による支出3,720百万円、有形固定資産の売却による収入313百万円、事業譲渡による収入130百万円、定期預金の払戻による収入105百万円等により3,263百万円の支出（前年同期は899百万円の支出）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入による収入2,680百万円、長期借入金の返済による支出202百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出132百万円、配当金の支払い105百万円等により1,965百万円の収入（前年同期は443百万円の支出）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により合理的に算定することが困難であることから未定としておりましたが、入手可能な情報や予測等に基づき連結業績予想を算定しましたので、公表しております。詳細につきましては、2020年10月28日公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,369	5,543
受取手形及び売掛金	4,630	2,881
有価証券	55	40
商品及び製品	580	623
仕掛品	154	277
原材料及び貯蔵品	121	111
分譲土地建物	465	497
その他	602	528
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	13,975	10,499
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	27,013	27,355
減価償却累計額	△17,003	△17,105
建物及び構築物 (純額)	10,010	10,250
機械装置及び工具器具備品	2,936	2,956
減価償却累計額	△2,307	△2,347
機械装置及び工具器具備品 (純額)	629	608
車両運搬具	17,886	17,165
減価償却累計額	△13,945	△14,142
車両運搬具 (純額)	3,941	3,022
土地	19,349	21,664
リース資産	1,219	1,462
減価償却累計額	△666	△716
リース資産 (純額)	553	745
建設仮勘定	224	603
有形固定資産合計	34,708	36,894
無形固定資産	450	400
投資その他の資産		
投資有価証券	3,944	4,000
退職給付に係る資産	991	1,012
その他	2,257	2,305
貸倒引当金	△41	△53
投資その他の資産合計	7,152	7,263
固定資産合計	42,312	44,558
資産合計	56,287	55,057

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,107	1,112
1年内返済予定の長期借入金	260	394
リース債務	251	334
未払金	2,755	2,190
未払法人税等	678	171
賞与引当金	1,024	1,213
過年度雑収計上旅行券引当金	22	22
その他	2,475	2,622
流動負債合計	8,576	8,060
固定負債		
長期借入金	354	2,698
リース債務	370	516
役員退職慰労引当金	43	28
関係会社事業損失引当金	—	8
退職給付に係る負債	967	979
その他	2,813	2,292
固定負債合計	4,549	6,524
負債合計	13,125	14,584
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	37,147	34,440
自己株式	△449	△450
株主資本合計	42,073	39,365
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,211	1,240
為替換算調整勘定	2	2
退職給付に係る調整累計額	△151	△161
その他の包括利益累計額合計	1,062	1,081
非支配株主持分	25	25
純資産合計	43,161	40,472
負債純資産合計	56,287	55,057



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	22,148	15,371
売上原価	16,358	14,140
売上総利益	5,790	1,231
販売費及び一般管理費	5,147	4,345
営業利益又は営業損失(△)	642	△3,114
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	36	37
持分法による投資利益	4	—
助成金収入	21	475
その他	46	52
営業外収益合計	116	570
営業外費用		
支払利息	1	2
持分法による投資損失	—	117
固定資産除却損	14	3
関係会社貸倒引当金繰入額	7	12
関係会社事業損失引当金繰入額	—	8
その他	16	17
営業外費用合計	38	162
経常利益又は経常損失(△)	721	△2,706
特別利益		
車両等購入補助金	15	27
負ののれん発生益	10	—
事業譲渡益	—	11
特別利益合計	25	38
特別損失		
固定資産圧縮損	14	24
減損損失	—	71
関係会社株式評価損	18	5
その他	—	1
特別損失合計	33	102
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	713	△2,770
法人税等	297	△168
四半期純利益又は四半期純損失(△)	415	△2,602
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	414	△2,601

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	415	△2,602
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	129	28
退職給付に係る調整額	△29	△11
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	2
その他の包括利益合計	98	19
四半期包括利益	513	△2,582
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	512	△2,582
非支配株主に係る四半期包括利益	1	△0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	713	△2,770
減価償却費	1,351	1,285
減損損失	—	71
のれん償却額	2	—
負ののれん発生益	△10	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	393	188
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△84	△71
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	15	11
受取利息及び受取配当金	△43	△42
支払利息	1	2
持分法による投資損益(△は益)	△4	117
助成金収入	△21	△475
有形固定資産売却損益(△は益)	△3	△4
有形固定資産除却損	2	1
事業譲渡損益(△は益)	—	△11
固定資産圧縮損	14	24
関係会社株式評価損	18	5
売上債権の増減額(△は増加)	1,408	1,748
たな卸資産の増減額(△は増加)	△285	△187
未払金の増減額(△は減少)	△482	△413
その他	474	△375
小計	3,458	△893
利息及び配当金の受取額	43	42
利息の支払額	△1	△2
法人税等の支払額	△109	△149
助成金の受取額	21	475
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,413	△528
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△805	△105
定期預金の払戻による収入	820	105
有形固定資産の取得による支出	△892	△3,720
有形固定資産の売却による収入	6	313
その他	△28	142
投資活動によるキャッシュ・フロー	△899	△3,263
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	—	2,680
長期借入金の返済による支出	△150	△202
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△178	△132
配当金の支払額	△105	△105
非支配株主への配当金の支払額	△0	△0
その他	△8	△274
財務活動によるキャッシュ・フロー	△443	1,965
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,070	△1,826
現金及び現金同等物の期首残高	6,212	7,244
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,283	5,418

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当第2四半期連結会計期間において連結子会社である舞子神姫タクシー株式会社は清算終了したため、連結の範囲から除外しております。ただし、清算終了までの損益計算書は連結しております。

第1四半期連結会計期間より神姫観光バス株式会社の商号を神姫観光株式会社へ変更しております。また、連結子会社であった神姫バスツアーズ株式会社及び神姫観光ホールディングス株式会社は連結子会社である神姫観光株式会社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

前事業年度の有価証券報告書に記載した、新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定及び会計上の見積りについて、2020年9月頃まで続くとの仮定をしておりましたが、新型コロナウイルス感染症による影響が想定以上に継続していることを踏まえ、本件が当社グループの業績に与える影響は2021年3月頃まで続くとの仮定を置き直し、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	業務受託	不動産	レジャー サービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への売上高	9,807	3,088	1,556	2,009	2,896	2,050	21,408	740	22,148
セグメント間の内部 売上高又は振替高	106	1,010	10	494	—	80	1,702	4	1,707
計	9,913	4,099	1,566	2,503	2,896	2,131	23,111	744	23,855
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△420	231	149	788	52	△117	683	△0	683

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・化粧品等の物品販売、  
広告代理、農業、介護等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	683
「その他」の区分の損失(△)	△0
セグメント間取引消去	△40
四半期連結損益計算書の営業利益	642

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	業務受託	不動産	レジャー サービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への売上高	6,407	2,883	1,460	1,693	1,888	361	14,694	676	15,371
セグメント間の内部 売上高又は振替高	78	903	9	325	—	7	1,325	1	1,326
計	6,485	3,787	1,470	2,018	1,888	369	16,020	678	16,698
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△2,897	206	119	675	△209	△988	△3,094	△22	△3,116

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・化粧品等の物品販売、  
広告代理、農業、介護等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	△3,094
「その他」の区分の損失（△）	△22
セグメント間取引消去	2
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△3,114

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
（固定資産に係る重要な減損損失）

「レジャーサービス」セグメントの飲食事業及び、「その他」セグメントの介護事業におきまして、経常的な損失を計上しており収益性の回復が見込まれないことにより、回収可能価額が帳簿価額を下回る事となったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において71百万円であります。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から、介護事業については、株式会社ホープから株式会社ケアサービス神姫に事業譲渡しております。これに伴い、報告セグメントの区分方法を見直し、従来の「業務受託」から「その他」として記載する方法に変更しております。雑貨等の物品販売部門については、会社組織の変更に伴い報告セグメントの区分方法を見直し、従来の「その他」から「旅行貸切」として記載する方法に変更しております。

また、2019年10月1日付で連結子会社である株式会社エルテオと神姫バスオール株式会社が合併し、神姫バス不動産株式会社に商号変更しております。これに伴い、前第3四半期連結会計期間より報告セグメントの区分方法を見直し、従来の「その他」に含まれていた神姫バスオール株式会社の事業を「不動産」として記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分で記載しております。